

平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 学校質問紙調査の分析結果と改善方策(概要)

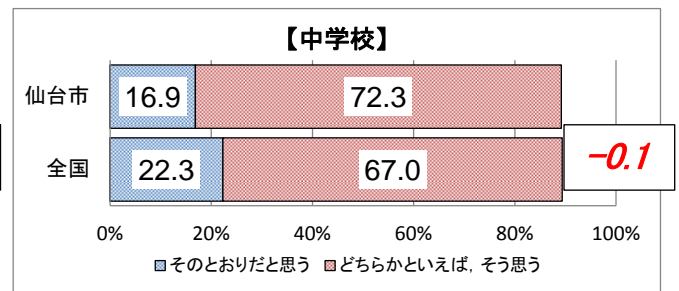
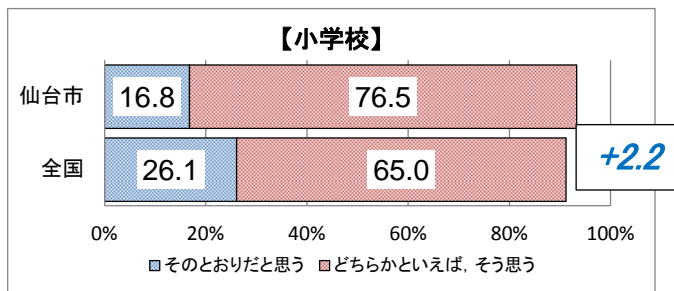
※全国との比較で、大きな違いがあった主な項目をまとめた。

(囲み内の数値は、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した学校の割合を合わせた数値と全国との差を示す)

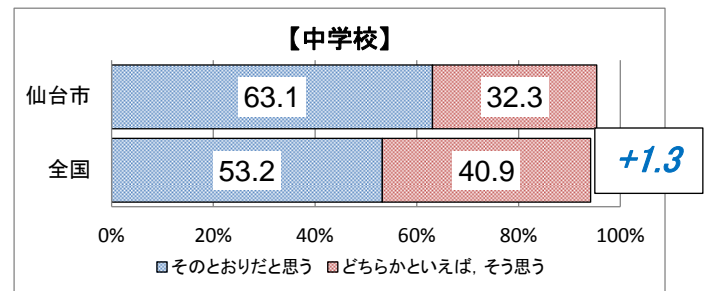
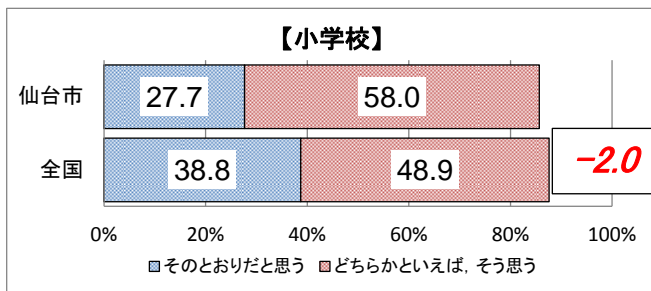
【分析結果 1】

生徒指導等に関する項目について、肯定的に回答した割合は、小・中学校の割合は、全国と同等である。しかしながら、将来の夢や職業に関する指導については、肯定的に回答した小・中学校の割合は、昨年度より下回っている。

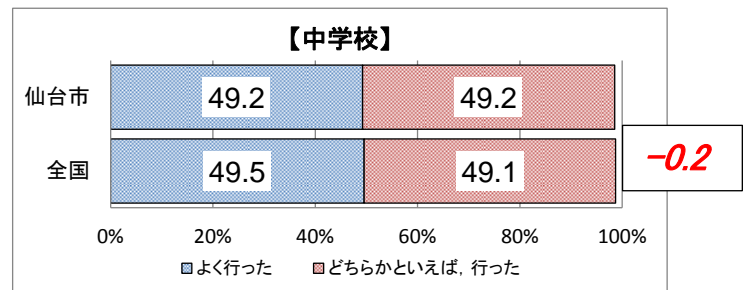
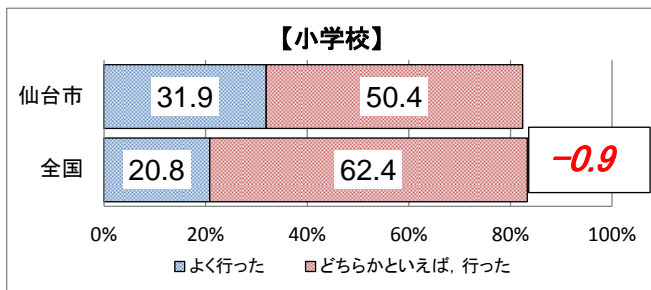
(1) 生徒指導等－1 児童生徒は、熱意を持って勉強していると思う



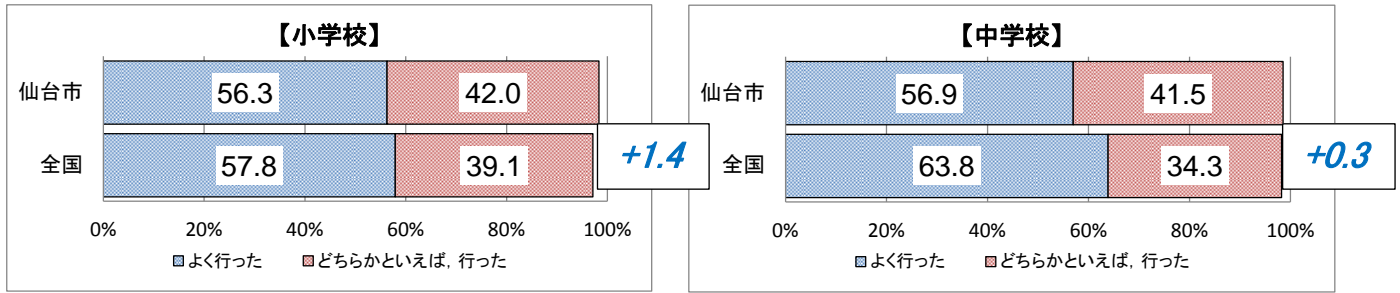
(1) 生徒指導等－2 児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う



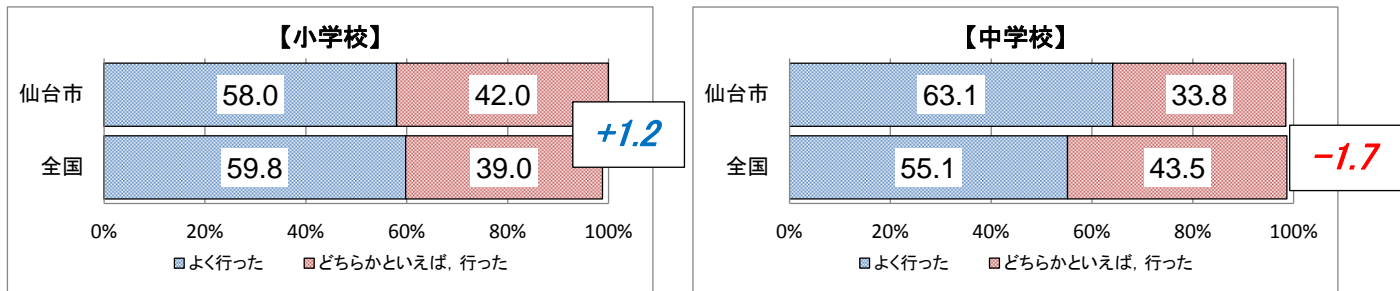
(1) 生徒指導等－5 児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を しましたか



(1) 生徒指導等－7 児童生徒に対して、前年度までに、学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか



(1) 生徒指導等－8 児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか



□改善の方策

○ 児童生徒の成長軸に合った適切な評価

- ・児童生徒の活動について、目標や、努力する点、工夫した点を考えさせ、その取組の過程を認めたり、集団の一員であるという意識や自覚を持たせたりしながら、児童生徒の成長軸に合った適切な評価をすることで、児童生徒の自己有用感を高めるようにする。

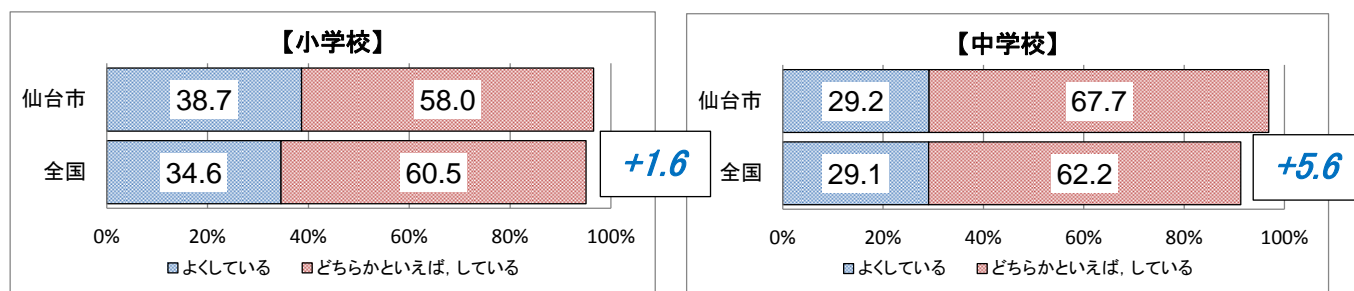
○ 小・中の接続を意識した切れ目のない指導

- ・自分づくり教育における子ども体験プラザでの体験活動や、たくましく生きる力育成プログラムの授業等の各取組、挨拶や学習のきまりといった生活面について、小・中の接続を意識して系統的に指導することで、切れ目なく将来の目標意識を高めたり、非認知的な能力を高めたりして、学習意欲の向上を図る。

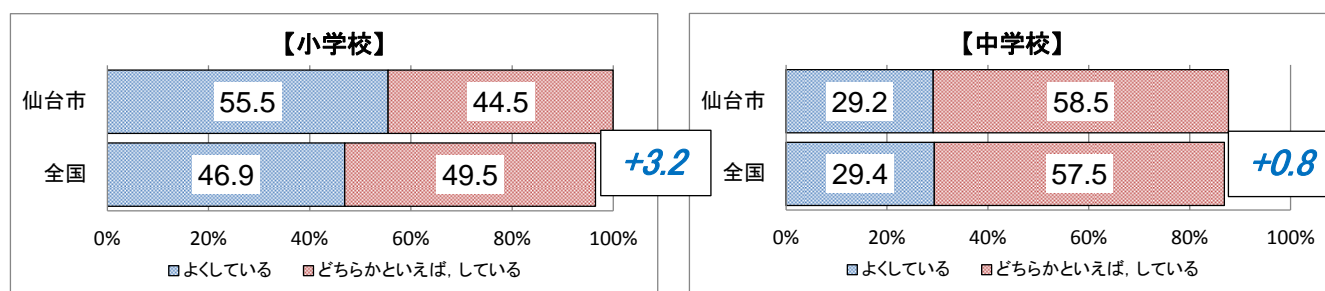
【分析結果 2】

カリキュラム・マネジメントなど、学校運営について、教科横断的な視点からの教育課程の編成に関する項目において、肯定的に回答した中学校は、全国をやや上回る状況である。また、指導計画の作成に当たっての、外部資源等の活用に関する項目において、肯定的に回答した小学校は、全国を上回っている。

- (2) 学校運営－ 1 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか



- (2) 学校運営－ 4 指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか



□改善の方策

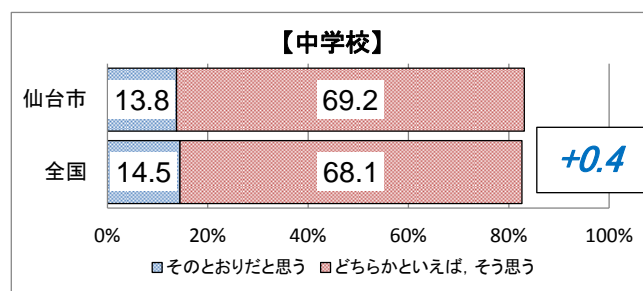
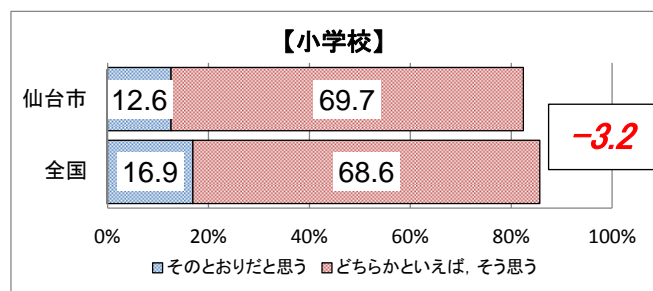
○ 「社会に開かれた教育課程」の視点からの人的・物的資源の確保・活用

- ・ 児童生徒や地域の現状を把握する調査や、仙台市標準学力検査等の各種データを基に、教育課程の編成、実施、評価をして、改善を図る一連の PDCA サイクルをしっかりと確立する。併せて、「社会に開かれた教育課程」の視点から、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源を、地域等の外部の資源も含めて確保・活用しながら教育課程を実施していく。

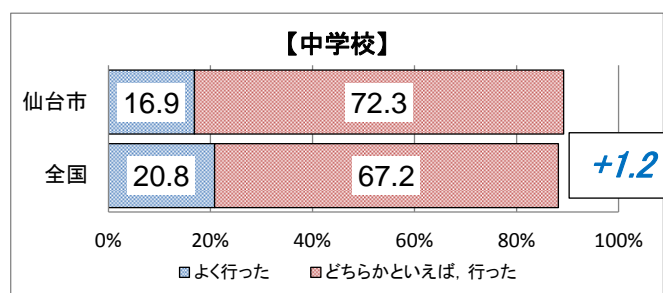
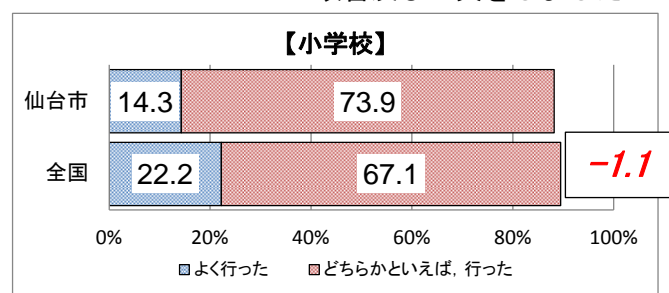
【分析結果 3】

児童生徒質問紙では、全国より上回っているものの、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する項目のうち、課題解決的な学習活動や習得・活用及び探究の学習過程を見通した授業改善の項目では、中学校は全国をやや上回っているが、小学校は全国よりやや下回る状況である。

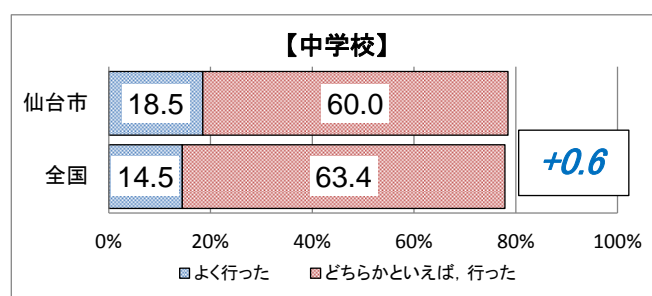
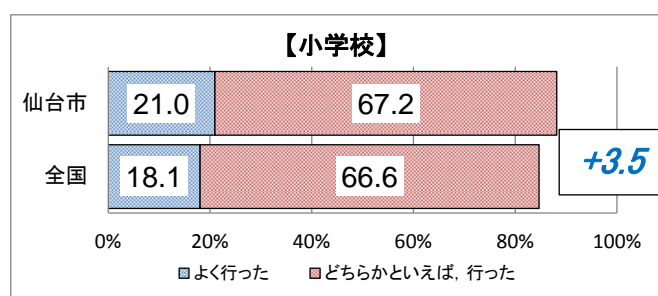
(4) 授業改善－1 児童生徒は、授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う



(4) 授業改善－6 児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



(4) 授業改善－7 児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



□改善の方策

○ 「見方・考え方」を働かせて思考力・判断力・表現力等を育成する指導改善

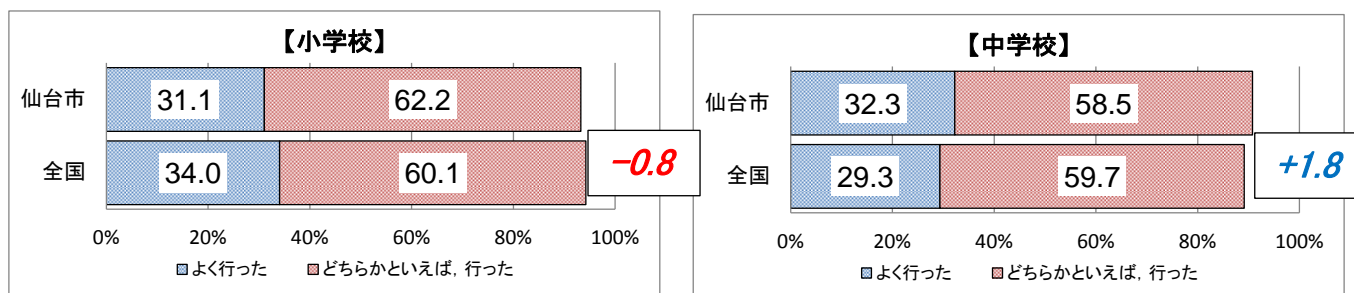
- ・教科等の「見方・考え方」を働かせて、知識を相互に結び付けたり、情報を整理して考えや意見を形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、考えや思いを適切に表現する過程をとおして、学習内容の深い理解につながるような授業工夫・改善を図るようになる。

【分析結果 4】

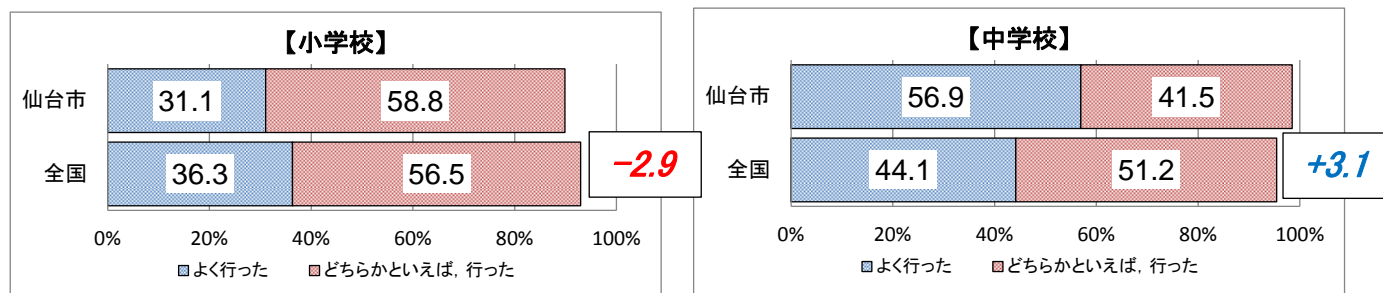
国語科の指導法において、前年度までに、書く習慣や様々な文章を読む習慣を付ける授業を行ったと回答した小学校は全国よりやや下回り、中学校はやや上回った。

言語活動に関する項目では、肯定的に回答した割合は、各教科を通じて学校全体で取り組んでいると回答した小学校は、全国と同等であるが、中学校については、全国を上回り、ほぼ全校で取り組んでいる。併せて、学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全職員の間で話し合ったり、検討したりしていると回答した中学校は、全国より上回っている。

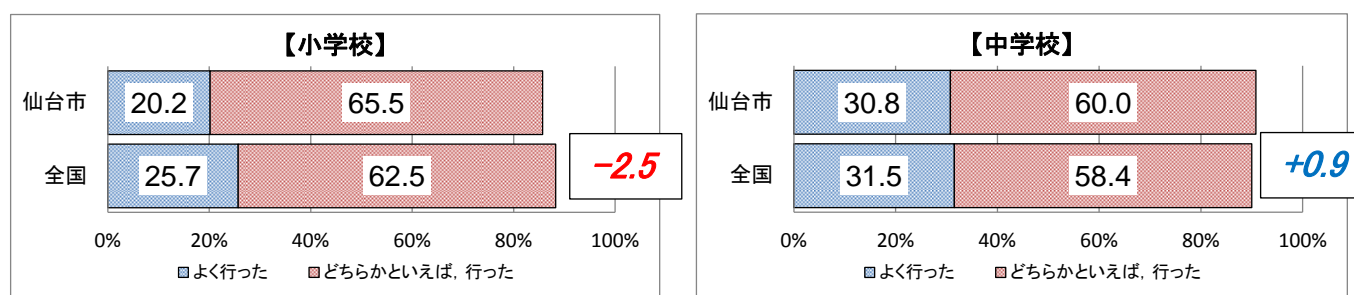
(5) 国語科の指導法－3 児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか



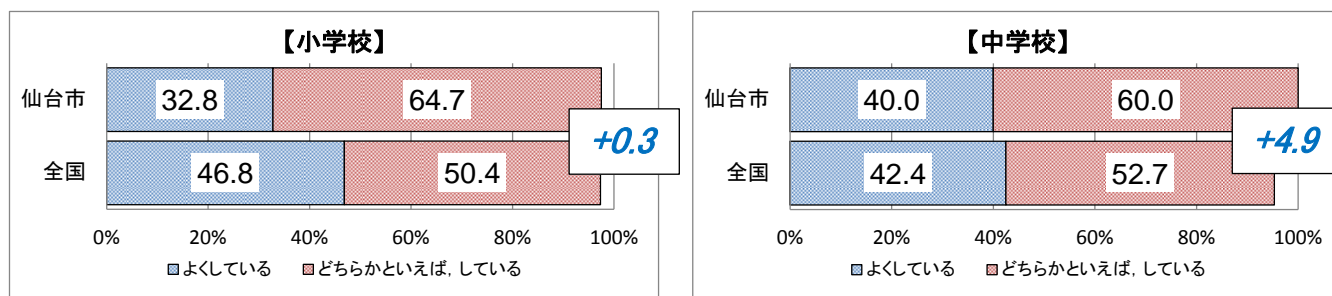
(5) 国語科の指導法－4 児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、書く習慣を付ける授業を行いましたか



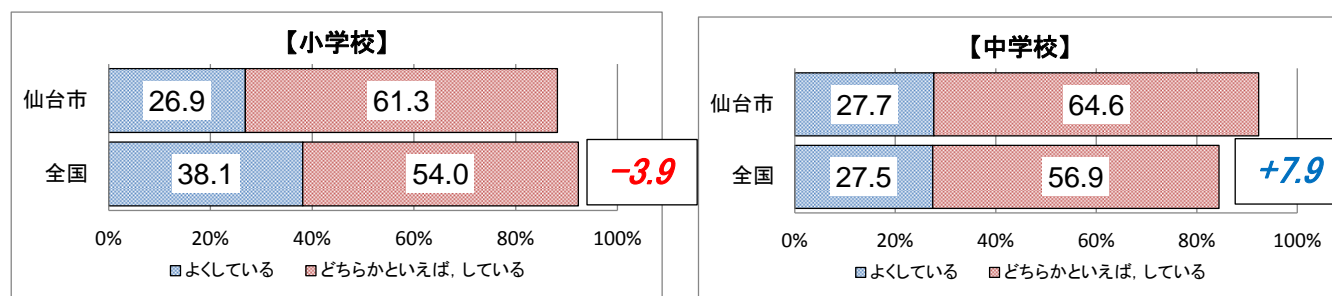
(5) 国語科の指導法－5 児童生徒に対する国語の指導として、前年度までに、様々な文章を読む習慣を付ける授業を行いましたか



(2) 学校運営－5 言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか（外国語活動は小学校のみ）



(3) 教職員の資質能力向上－8 学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか



□改善の方策

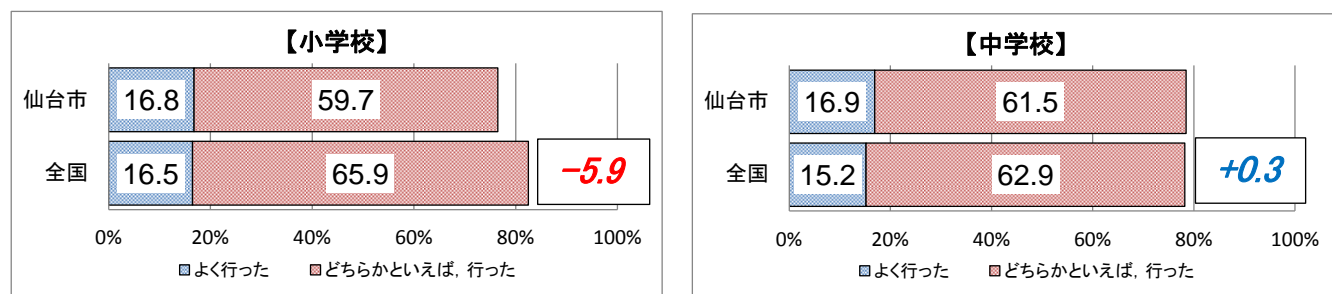
○ 国語科を要とした言語活動の展開

- ・主体的・対話的で深い学びを実現するに当たり、国語科で学習したことを要としつつ、各教科において言語活動を充実させることが必要であることから、国語の学習において、「話す」「聞く」「読む」「書く」のバランスの取れた授業が展開できるように指導力の向上を図っていく。併せて、各学年や教科間の関連を踏まえた系統的で組織的な言語活動が実施できるように「カリキュラム・マネジメント」を適切に行うようにする。

【分析結果5】

算数・数学科の指導法に関する項目で、実生活における事象との関連を図った授業を行った小学校の割合は、昨年度より下回り、また、全国より下回っている。一方で、中学校の割合は、昨年度よりも上回り、全国とは同等であった。

(6) 算数・数学科の指導法－3 児童生徒に対する算数・数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



□改善の方策

○ 算数・数学について学ぶ意義を見いださせる指導

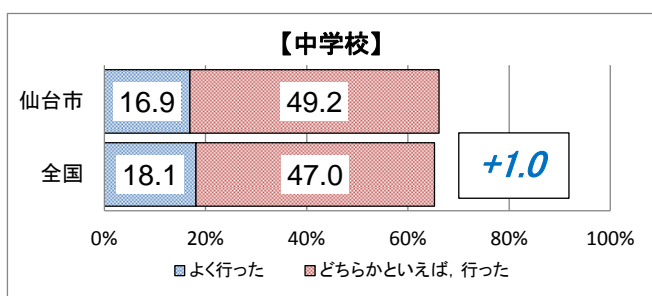
- ・習得した知識・技能が実社会・実生活における課題解決に活用されていると実感できることで、学ぶ意義を見だし、学習意欲を高める「深い学び」を実現させる授業工夫・改善を図っていく。また、知識・技能の習得については、放課後等学習支援事業によるサポート体制の整備や、「家庭学習ノート仙台」等の活用による家庭学習習慣の定着を図る取組を引き続き進めていく。

【分析結果 6】

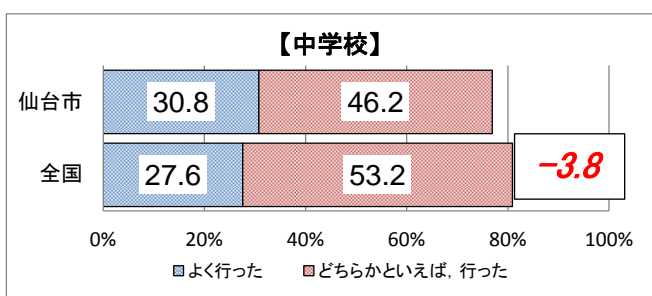
英語科の指導法に関する項目で、「話すこと」における「やり取り」の言語活動を行っている」と回答した中学校の割合は、全国と同等であるが、「発表」に関する言語活動を行っている」と回答した割合は、全国よりやや下回る。また、英語による授業への取組の状況についても全国よりやや下回る状況となっている。

※ 英語科の指導法に関する項目は、中学校のみ回答

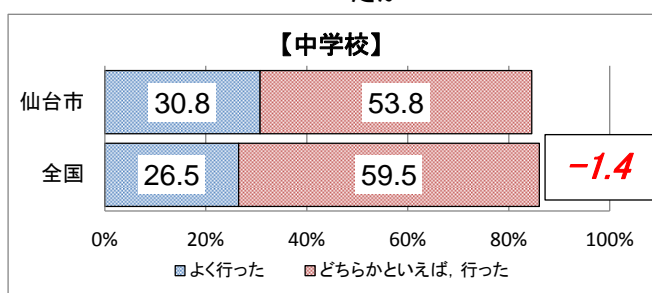
(7) 英語科の指導法－5 生徒に対する英語の指導として、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか



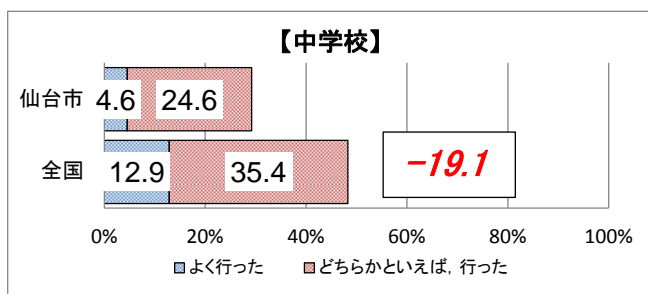
(7) 英語科の指導法－6 生徒に対する英語の指導として、前年度までに、英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか



(7) 英語科の指導法－10 生徒に対する英語の指導として、前年度までに、生徒が英語に接する機会を増やし、教室を実際のコミュニケーションの場とする観点から、授業を英語で行いましたか



(7) 英語科の指導法－11 前年度までに、英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校と行いましたか



□改善の方策

○ 発表や即興的なやり取りを計画的な設定

- ・発表ややり取りするテーマの設定を工夫し、即興性や予測不能性を意識した準備なしで伝え合ったり、情報を整理し、まとまりのある内容を話したりする、思考力・判断力・表現力等を育てる言語活動について、年間を通して計画的に設定する。

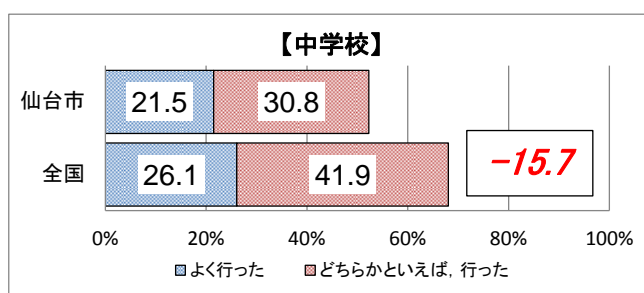
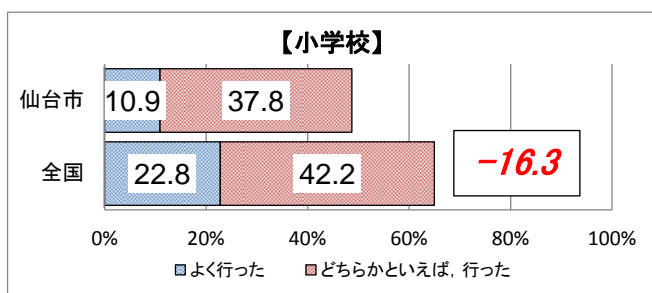
○ 生徒が多くの英語に触れられるような授業展開

- ・日常の挨拶や日付等の基本的な表現をただ生徒に言わせるだけではなく、教室英語や Teacher Talk によって日ごろから多くの英語に触れられるようにしたり、実際に教師と生徒、生徒同士でやり取りをする活動を帯活動等で意図的に設定したりすることで、生徒が英語に接する機会を増やしていく。

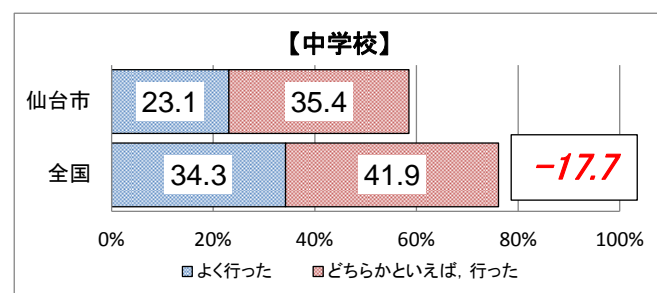
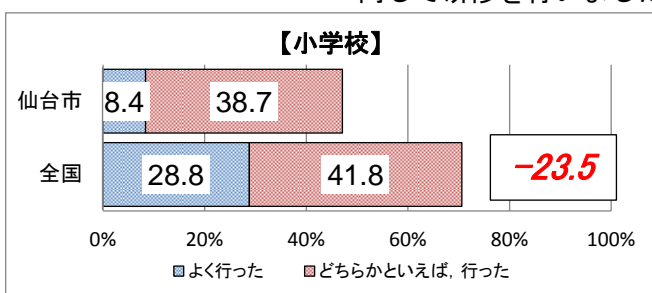
【分析結果 7】

学校種間の連携に関する項目では、小・中学校で教育課程に関する共通の取組を行った、授業研究など合同して研修を行ったと回答した小・中学校の割合は、全国より下回っている。

(10) 学校種間の連携－1 学校では、前年度までに、近隣等の中学校・小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか



(10) 学校種間の連携－2 学校では、前年度までに、近隣等の中学校・小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか



□改善の方策

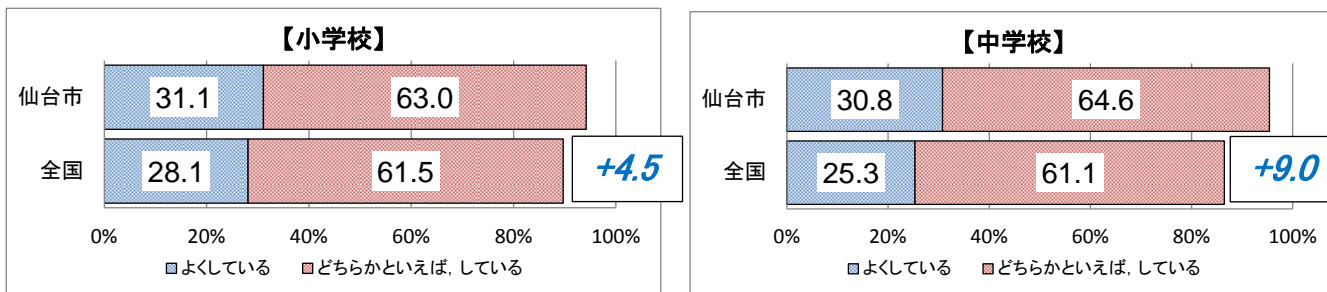
○ これまでの「学びの連携」の取組の活用

- ・「9年間で育む子ども像」の共通理解の下、各学校の実情に応じた内容で、展開してきた「学びの連携」を一步進め、教職員の授業交流により授業力向上を図り、児童生徒の学力向上を目指し、児童生徒の発達段階に応じた生徒指導のあり方を学び合うことで生徒指導力の向上を図っていくなど、これまで取り組んできている教育活動を活用するようにする。

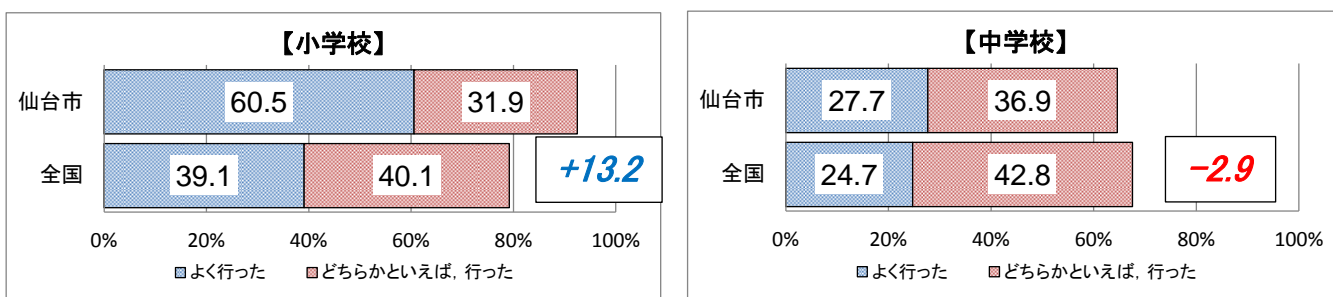
【分析結果 8】

地域との連携に関する項目において、学校支援地域本部を生かして、登下校の見守りや学習・部活動支援等、保護者や地域の人との協働による活動をよく行ったと回答した小学校は、全国を上回り、中学校は、やや下回る状況である。

(11) 地域との連携－ 2 教育課程の趣旨について、家庭や地域と共有を図る取組を行っていますか



(11) 地域との連携－ 4 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動のよう、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか



□改善の方策

○ 地域における人的・物的資源の確保・活用

- ・新学習指導要領で打ち出された「社会に開かれた教育課程」の観点から、学校においては、地域連携担当教諭やスーパーバイザーを中心に、教育活動の実施に必要な人的・物的資源の確保や体制を整備し、意図的・計画的に保護者や地域に協力を要請できるように努める。